

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第2学年（男子33名、女子19名、計52名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科・英語

英語科

1 結果の分析

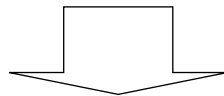
(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・教科全体では、区の平均を2.6ポイント、全国の平均を3.1ポイント下回っている。
- ・領域別の正答率を比較すると、「聞くこと」に関しては区・全国の平均を上回っているが、「読むこと」や「書くこと」に関しては4ポイント以上下回っている。リスニング問題に関しては日ごろの授業から馴染みがあると考えられるが、語形や語法を繰り返し確認し理解の定着を図る活動や、英語で正しく作文する活動が必要である。
- ・観点別の正答率では、「外国語理解の能力」の観点では区・全国の平均を上回っているが、残りの3観点に関しては平均を下回っている。特に「外国語表現の能力」に関しては、区の平均を4.2ポイント、全国平均を7.2ポイントと大幅に差をつけられているため、早急の改善が必要である。
- ・問題の内容別に見ると、リスニング(内容理解・対話分の応答)に関しては区・全国の平均を共に上回っているが、それ以外の問題に関しては平均を下回っている。「語形・語法の知識・理解」が48.5%と50%を下回り、「場面に応じて書く英作文」が21.6%と非常に低いため、既習事項の定着を繰り返し確認し、それを活用して英作文を書く活動を多く取り入れていきたい。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・語形や語法の知識・理解を問う問題の正答率が50%を下回っている。・場面に応じて書く英作文の正答率が著しく低い。	<ul style="list-style-type: none">・既習の文法事項の定着が不足しており、定着の確認を繰り返す必要がある。・既習や新出の文法事項を応用して、場面や条件に応じた作文を書く活動を実施し、英作文に対する抵抗や不安を取り除く必要がある。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

語形や語法知識の定着	<ul style="list-style-type: none">・帯活動の時間等を利用し、語形変化や文法事項の復習を図る問題をプリントやワークから出題する。・また教科書の本文中に現れた既習文法事項については適宜質疑応答を通して確認する。
場面や条件に応じた英作文能力の育成	毎回の授業で英作文に取り組む活動を導入する。最初は1文書くといった比較的自由な作文から始め、次第に場面設定や字数の制限等を設けた問題に取り組むことで、英作文に対する不安や抵抗感を段階的に克服するよう促す。また作文に関するテクニックや、場面に合った文法事項の応用については適宜指導していく。

(2) 改善策に対する検証

- 語形や文法知識については、定期テストや到達度テストでの出題に加えて、既習事項の確認を促す小テストを実施し、確実な定着を目指す。
- 授業中に作成した英作文については、定期的に回収し添削を行うことで改善点を指摘し、英作文能力の向上を促す。また条件英作文を定期テストで実施し、到達度を把握する。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第2学年（男子33名、女子19名、計52名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科・英語

国語科

1 結果の分析

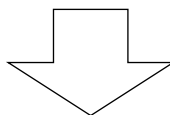
(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・話すこと・聞くことの力をみる問題において話し合いの内容を聞き取るについては4問とも全て全国正答率を5～12ポイント上回っている。1年次からの聞き取り問題の演習の成果がでている。
- ・言語事項の力をみる漢字の読みに関しては、正答率100%が2問あり、毎時間の漢字小テストの成果がでている。一方、言語事項の文法の品詞問題では、全国平均を15ポイント下回っている。
- ・読むことの力をみる問題では、場面の展開を捉えることができるというねらいの問題において全国平均を1ポイント下回っている。
- ・書くことの力をみる問題では、新たにカードを書くことができるというねらいの問題において全国平均を6ポイント下回っている。また、グラフから読み取ったことを書くという新傾向問題で3.5ポイント下回っている。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・言語事項の文法の品詞問題について理解が十分ではない。・場面の展開をとらえるねらいの問題について目標値と5、1ポイントの差がある。・新たにカードに書くというねらいの問題について目標値と9ポイントの差があり、グラフから読み取って書くという問題の目標値との差が7ポイントある。	<ul style="list-style-type: none">・品詞問題を解く力を付ける必要がある。・場面の展開を捉える力を付ける必要がある。・書く力を付ける必要がある。・グラフを読む力を付ける必要がある。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

言語事項の文法問題の定着	・文法の復習、そして問題演習を数多く取り組む。
<ul style="list-style-type: none">・読む力の育成・書く力の育成	<ul style="list-style-type: none">・長文読解問題演習や新傾向問題演習を数多く取り組む。・課題作文演習に取り組む。

(2) 改善策に対する検証

- 定期考査で文法問題を出題し、8割定着を確認する。
- 定期考査で教科書範囲以外の問題を作成し、7割定着を確認する。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第2学年（男子名33、女子19名、計52名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科・英語

社会科

1 結果の分析

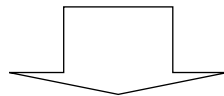
(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・領域別の、世界各地の人々の生活と環境では、本校が70.1%で区平均に対し+8、全国に対し+2.8ポイント上回っている。中世の日本では、本校が49.3%で区平均に対し+7.9である。全国に対し+3.2ポイントでありように全ての領域で区平均を上回っている。
- ・古代までの日本の領域では、全国に対し-4.7ポイントである。
- ・観点別にみると社会的な思考・判断・表現は本校が45.9%で区平均に対し-3.8・全国に対し+0.4ポイント上回っている。
- ・問題別の正答率では、本校が区平均に対し飛鳥～平安時代は+6.8だが、古墳時代は-1.6ポイント。以上から全体としては地理的分野は力が付いているが、歴史的分野の古代までの復習を図る必要がある。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・古代文明の特色についての理解が十分ではない。・律令国家の成立について史実の整理が十分ではない。・社会的な思考・判断・表現力の育成を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・古墳、飛鳥時代の成立と渡来文化を整理して理解させることが課題である。・奈良、平安時代の政治的課程を関連付けて整理させる必要がある。・単純な語句の暗記ばかりではなく、できごとの理解、関連、背景、変化を理解させる必要がある。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

<ul style="list-style-type: none">・知識・理解の向上	<ul style="list-style-type: none">・教科に対する意欲を維持するため、関心を引く教材、フラッシュカードの提示を継続する。・理解させる内容については、身近にある具体的なものにたとえて説明するように心がける。・授業では記入する時間を確実に確保する。・古墳、飛鳥、奈良、平安時代を振り返る。・復習のプリント、朝学習プリントを作成、学習に取り組みさせる。
<ul style="list-style-type: none">・思考・判断・表現力の向上	<ul style="list-style-type: none">・平素の学習活動の中で、自己で整理、考え、自分の言葉で発表する機会を意図的に増やす。・級友の発表活動を集中して聞かせ、自己の考えと比較、改めその後の自己を深めさせる。
<ul style="list-style-type: none">・振り返り学習を改善する	<ul style="list-style-type: none">・授業内では系統的な復習発問にも努め、単元後は小テストの実施と居残りの個別指導を行う。

(2) 改善策に対する検証

- 家庭学習でのeライブラリーの活用も呼びかけ、昨年度より利用生徒数を増やし、基礎知識を定着させる。
- 定期考査でも意図的に記述問題等に取り組みさせ、思考、判断、表現力の向上を目指す。また、得点の50%以上を合格とし、不合格生徒には再テストを実施することで、学力の向上を図る。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第2学年（男子33名、女子19名、計52名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科・英語

数学科

1 結果の分析

(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・領域別では区平均と比較すると3領域で上回っている。特に関数分野では4.7ポイント上回っており、比例・反比例に関する2つの変数の変化など理解できていることがうかがえる。一方、目標値や全国平均と比較すると図形分野がわずかに下回っている。作図や図形を空間内で捉えることを苦手としている生徒が一定数いることが分かる。
- ・観点別では、区平均と比較すると4観点全てにおいて上回っており、「関心・意欲・態度」と「技能」、「知識・理解」では目標値、全国平均と比較しても上回っている。一方「見方や考え方」では目標値、全国平均と比べるといずれも0.2~0.4ポイントほど下回っており、課題から規則性などを把握し、得られた知識を利用していく能力の育成が必要である。
- ・問題別では、各単元で目標値・区平均・全国平均のいずれかを必ず上回ってはいるが、「空間図形」と「資料の散らばりと代表値」の分野では正答率が50%を下回っており十分とは言えない。「空間図形」では領域別でも同様の結果が出ており、図形の移動など頭の中での確にイメージをもたせていくことが今後必要である。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・数量分野や関数分野の学力は定着しているが、図形分野の学力の定着が不足している。・数学における知識や計算等指示されたことを的確に行う技能は身に付いているが、数学的に思考する能力は不十分である。	<ul style="list-style-type: none">→図形を正確にイメージする能力、各種図形や線分に見られる性質などの理解が不十分である。→課題から法則や性質を発見することができない。身に付いた知識のうちどれを利用していけばいいのか判断できていない。

2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

数学的思考力の育成	<ol style="list-style-type: none">① 課題解決に至るまでの途中過程を明確に示せるワークシートを作成するなど、個々が思考の過程をしっかりと捉えられる工夫をする。② ヒントカードや発展的な問題などを用意し、思考力の度合いに応じて課題解決ができたり、より高い思考力の育成につなげていけたりするよう工夫していく。
図形分野の学力の定着	今回不十分とされた単元は第2学年の証明や各図形の性質を学習する上でも必要な学習内容である。第2学年の図形分野の学習において、第1学年や小学校の内容も確認し、既習内容との繋がりを意識して、図形分野の学力の定着を図っていく。

(2) 改善策に対する検証

- 授業内で行う小テストで平均8割以上の正答率を目標とする。また見方や考え方の達成を確認する問題を分析する中で、正答率5割未満の不十分箇所の把握と原因の究明を行い、以降の指導に生かしていく。
- 定期テストにおいて、答えだけでなく記述式問題を取り上げ、9割以上の解答率と7割以上の正答率を目標として表現力の向上具合を確認する。
- 授業におけるワークシートの解法などを評価し、各生徒が数学的な見方や考え方における達成度が70%以上になるよう思考力のさらなる向上を進めていく。

平成29年度 台東区立上野中学校 授業改善推進プラン

○調査の概要【台東区総合学力調査】

- ・調査対象 台東区立上野中学校 第2学年（男子32名、女子19名、計51名）
- ・実施日 平成29年4月17日
- ・実施教科 国語・社会・数学・理科・英語

理科

1 結果の分析

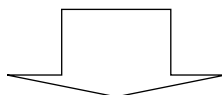
(1) 結果の概要〔領域別の平均正答率の比較(%)〕

○全体的な状況の説明

- ・教科全体の正答率は区平均を1.9ポイント上回ったが、目標値には5.9ポイントもの差があり、特に活用では非常に低い達成率となっていた。
- ・領域別では「エネルギー」の分野の正答率が低く、また問題の内容別でも「光」や「力」の正答率が目標値を10ポイント以上の下回っていることから、重点的な指導が必要だと考えられる。
- ・観点別にみると、「科学的な思考・表現」が目標値よりも約8ポイント低く、誤答分析の結果、説明したり、計算して値を求めたりすることが苦手なことがわかった。一方、「関心・意欲・態度」も8ポイント低く、少なからず相関関係があると思われるので、興味関心を高めながら取り組む必要がある。

(2) 結果から明らかになった生徒の実態と課題

個別の状況、課題	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・科学的思考力や表現力が必要とされる記述問題の正答率が低く、事象について説明することが苦手である。・誤答分析の結果から、グラフやデータを読み取ることが不得意であり、圧力や濃度の求め方、花のつくりや気体の捕集法に誤認識があることが分かった。	<ul style="list-style-type: none">→学習する実験操作の意味や実験結果の考察についてしっかり考え、正しく理解して言語化することができていない。→グラフやデータの情報を正しく読み取ることができる力が身に付いておらず、圧力や濃度を求める基礎的な公式を正しく理解し、適切に使えていない。



2 改善策

(1) 実態に沿った具体的な改善策

思考力や表現力の育成	授業で行った実験や観察のレポート作成の際、結果をもとに科学的な根拠を示して自分の考えを記述する機会を意図的に増やす。最初は空欄を埋めるような形で始め、徐々に自分の考えを言語化して書き表せるようにする。また、作成したレポートを元にして発言や発表をする機会も設ける。
資料の読み取り力の育成	教科書に頻出する項目について取り上げ、データをグラフ化すること、グラフから読み取れる情報を正しく分析することをパターン化して練習させる。典型的なグラフやデータ分析を行うことで資料を読み取る視点を養えるようにする。
基礎的な学習事項の定着	圧力や濃度、密度などを計算によって求める公式は基礎的な知識であるが、授業内だけでは定着しにくい学習事項である。絶対的な演習量が不足しているためと考えられるので、問題のレベルを段階的に上げながら、多くの問題に取り組ませる。

(2) 改善策に対する検証

- 定期考査においても記述式の問題を意図的に入れ込み、自分の考えを科学的な根拠を示して言語化し、文章として書く作業に取り組ませる。到達度に応じて評価をし、生徒に還元する。
- 小テスト形式でグラフやデータの読み取り、圧力や濃度の計算問題などに取り組ませる。問題を段階的に作成し、理解度によってレベルアップしていけるようにする。その到達度を評価に組み込むようにし、生徒の動機付けにして意欲につなげる。